



カツオドリが航行船と付随飛行する謎に迫る!

八木 光晴（長崎大学水産学部・助教・博士（農学））

目的： カツオドリが航行している船舶に対して付随して飛行し続ける行動の理由を明らかにする。

はじめに

カツオドリ（上の写真）はその名の通り、カツオなどに追われて海面付近に上がってきた小魚などを捕食する海鳥の一種である。生活のほとんどを洋上で暮らし、空中から水中の獲物を発見すると翼をたたんで急降下し、水中に潜って獲物を捕らえる。急降下するときの時は、実に80キロにも達するという凄腕（凄クチバシ？）の海のハンターである。



カツオドリの意外な行動!?

申請者は、長崎大学水産学部の附属練習船「長崎丸（左の写真）」(842トン)に乗船中、カツオドリが航行している船と並んで飛行し続け、時折、海中に突っ込んでまた船と一緒に付随して飛ぶという面白い行動を見かけた。彼らは一体何をしているのだろうか!?

特色

カツオドリの生態に関する知見は、調査・観察機会の少なさから陸上に暮らす鳥類と比べると少なく、本行動についても記述された文献は無い。知られざる洋上を舞台に密かに繰り広げられるカツオドリの行動を明らかにできる。

申請者は、カツオドリが分布する海域を航行する船舶に年間160日以上乗船^{*}しており、詳細な行動の現場調査が可能となっている。（*本申請書の写真は、過去の乗船時に撮影したものである。）



男女群島沖でのカツオドリの付随飛行

作業仮説：カツオドリは航行船舶を利用して狩りをしている。

(カツオドリは、航行船舶に驚いて海面上に飛び出すトビウオを巧みに捕食しているのではないだろうか?)



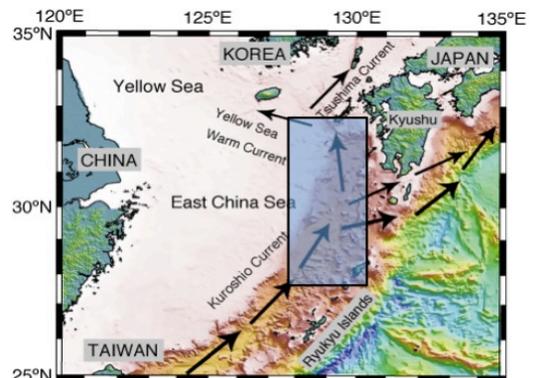
船乗りは常に海を観察しています

何を明らかにするか？

- ・ 作業仮説の検証：カツオドリが本当にトビウオを捕食しているのか？その決定的瞬間を記録する。
- ・ カツオドリのトビウオに対する捕獲成功率を明らかにする。
- ・ いつ、どこで出現するのか？また、船舶の大きさにより付随飛行の目撃頻度に違いがあるのか？を明らかにする。

調査地と期間

- ・ 調査地は主に東シナ海とする（右図の青色で囲んだ範囲）。ここは長崎丸が頻繁に航海を行っており、予備調査でもカツオドリの付随飛行がしばしば見られた海域である。
- ・ 調査期間は、2015年4月から2016年3月までの航海中とする（その間の航海日数はおよそ160日）。尚、1月～2月の間は船がドック入りするので除く。



図は Yagi et al., in *Marine Biodiversity Records* (2014)より。



ワッチ中に撮影したカツオドリ

調査方法

- ・ 付随飛行の発見は、船橋からワッチ（航行の安全を確保するための監視）中に行い、緯度・経度・水温・波高・風速を記録する。乗組員にも御協力を願う。
- ・ 捕食行動の瞬間はカメラ、及びビデオカメラで撮影する。
- ・ 捕獲成功率は、カツオドリがダイビングした回数と実際に捕獲できた回数から算出する。
- ・ 目撃頻度は、漁船からタンカーに至る各乗組員に聞き取り調査を実施する。

成果の公表

本研究によって得られたデータをまとめて、「Brown booby takes advantage of ship navigation to prey on flying fish (カツオドリは航行船を利用して効率的にトビウオの狩りをする)」のタイトルで国際誌に投稿、論文にする。また、大学のプレスリリースやホームページを通じてその内容を日本語でも解説し、国内外問わず成果を広く社会に発信する。

カツオドリの貴重な行動を記録する為に、是非ともご支援願いたい。